東北地方太平洋沖地震津波を踏まえた津波評価技術

津波評価小委員会の活動について

津波評価小委員会委員長 高橋智幸(関西大学社会安全学部)

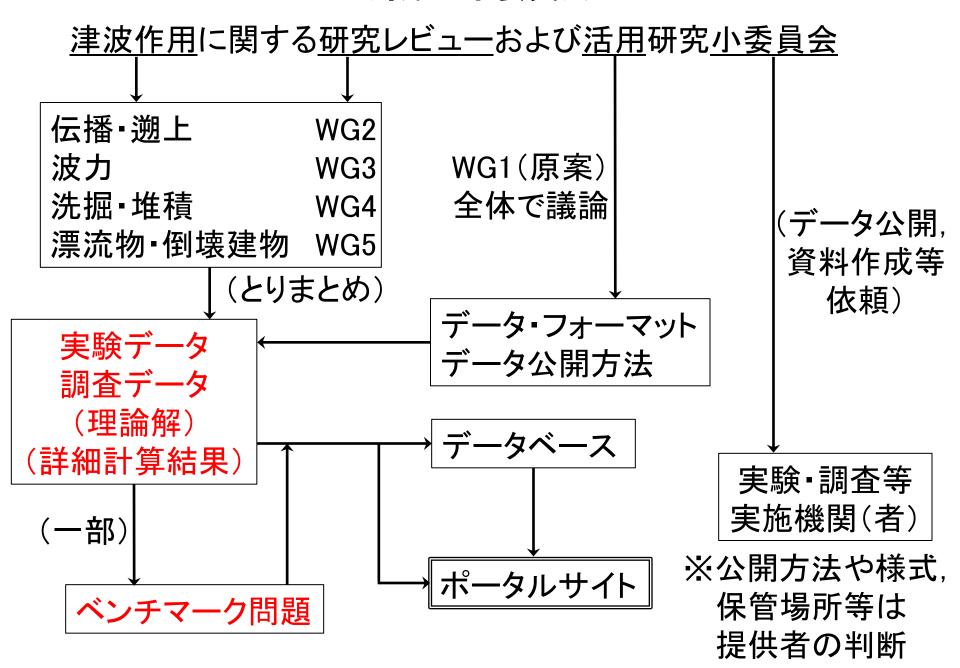
原子力発電所の津波対策の課題

想定(事前評価) は不可欠 津波評価小委員会 最新の知見・一継続的な見直し 歴史津波に関する知見は不十分 東北津波以前 既往最大 + 不確かさ 東北津波以後 決定論的な津波ハザード評価 → 物理的に起こり得る最大規模 → ドライサイト 多数シナリオ(大すべりなど) 確率論的な津波ハザード評価 想定を超える津波を想定 深層防護

想定に頼り過ぎない → 新規制基準の審査ガイドー 各研究機関 発災後にどう動くか? ← 津波監視 + その情報をどう使うか? 被害の規模と継続期間 津波警報は低解像度(空間、津波高)、 長時間継続 ↓(気象業務法改正済) 重要施設を対象とした高解像度津波予報システム 津波評価の信頼性 離れ小島にあるのではない

海岸工学委員会 数値解析手法には非公開部分 自治体の津波防災との連携 (例) アルゴリズムやコード 地域防災への貢献 事業者 津波レンピークロスチェック解析 _ ベンチマーク問題

海岸工学委員会



津波評価小委員会における取り組み

第 I 期(H11~12年度)

- 津波水位評価手法の検討・基準化
- 水位変動以外の事象等の文献調査
- ⇒土木学会「原子力発電所の津波評価技術」 を刊行(2002)

- ・地震および津波の波源に関する知見
- 津波数値計算手法の進歩

<u>第Ⅱ期(H15~17年度)</u>

- ・確率論的津波ハザード解析手法の検討
- ・分散性と砕波を考慮した数値モデルの検討
- ・ 津波による波力評価手法の検討
- ⇒委員会報告として土木学会論文集に投稿

JEAC^

第Ⅲ期(H18~20年度)

- 津波による砂移動評価手法の検討
- ・確率論的津波ハサートが解析手法の高度化及びとりまとめ
- ⇒砂移動評価式の論文投稿

JEAC^

⇒「確率論的津波ハザード解析の方法」公開(2011)

原子力学会標準へ

<u>第Ⅳ期(H21~23年度)</u>

- ・波源および数値計算方法に関する最新の知見の反映
- ・波力・砂移動・確率論的津波ハザード解析手法等の評価技術の基準化
- ⇒「原子力発電所の津波評価技術」へ反映 → 東北地方太平洋沖地震津波に関する課題抽出

第Ⅴ期(H24~26年度 **27年度上期**)

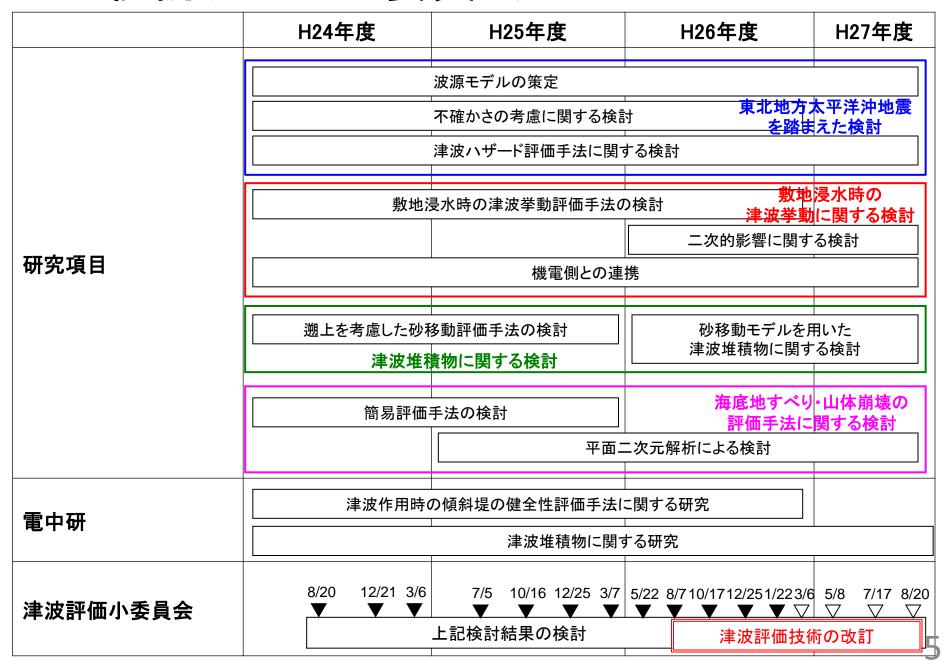
延長

東北地方太平洋沖地震を踏まえた津波評価手法

「原子力発電所の津波評価技術」の改訂(H27年度予定)

2011東北地方太平洋沖地震

検討および小委員会のスケジュール



第V期の目標および検討項目

- ■第Ⅳ期までの成果と東北地方太平洋沖地震を含めた最新 の知見を踏まえて、「津波評価技術」の改訂を行う。
 - (1)東北地方太平洋沖地震を踏まえた検討
 - 波源モデルの策定
 - 不確かさの考慮に関する検討
 - 津波ハザード評価手法の検討
- ■機電側との連携を図りつつ、発電所敷地浸水時の津波挙 動および二次的影響に関する評価手法を確立する。
 - (2)敷地浸水時の津波挙動に関する検討
 - 敷地浸水時の津波挙動に関する評価手法の検討
 - 二次的影響に関する検討
 - 機雷側との連携

+電中研研究:漂流物実験

■近年注目されている津波堆積物や海底地すべり等による 津波評価について基礎検討を行い、知見の蓄積を図る。

(3)津波堆積物に関する検討 十電中研研究:認定法

- 遡上を考慮した砂移動評価手法の検討
- 砂移動モデルを用いた津波堆積物に関する検討
- (4)海底地すべり・山体崩壊の評価手法に関する検討
 - 簡易評価手法の検討
 - 平面二次元解析による検討

短期

流体力:短期 漂流物:短期+中期

十中長期

中期

短期